

十八成アーモンド苑 アーモンド・オーナーの皆さまへ

拝啓

新緑の候、皆さまにはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

一般社団法人十八成ビーチ・海の見える丘協議会から、アーモンド・オーナーの皆さまへ感謝とお願いの手紙を差し上げます。

皆さまのアーモンドは今年も可憐な花を咲かせました。鹿による食害と植樹した土地の土の違いなどにより、生育に多少のばらつきはありますが、610本のアーモンドの中で枯れてしまいましたのはわずか3本だけです。その3本も替わりのものを植えましたので、皆さまのアーモンドは育っています。

幣協議会の役員の阿部栄悦が日常的にアーモンドを我が子のように熱心に世話をし、愛知から月に1回、筒井チームと呼んでいる筒井さん、勝谷さん、山田さんを中心としたボランティアの皆さんが来られて、阿部栄悦を支えて手伝ってくださっています。

アーモンドの花を咲かせるという第一期の目標は達成することができたと考えています。これもオーナーの皆さまのおかげと心より感謝申し上げます。

さて、さる4月14日(土)に十八成浜を訪問されたNPO法人被災者応援愛知ボランティアセンターの4人の理事の皆さんと、幣協議会の4人が懇談をしました。

参加したのは、十八成協議会役員(沼倉憲一、阿部栄悦、阿部邦子、久田光政)と、愛知ボラセン理事(田中涼子、徳倉大司、光川典宏、久田光政)で今後のことを議論しました。(注:久田は、幣協議会事務局長であり、愛知ボラセンの理事長です)

その席で、阿部栄悦は、「花を咲かせること、これは成功とっていい苗木の一区切りでもある」と、とても嬉しそうに、そして安心したように語りました。さらに阿部栄悦は、アーモンドのオーナーさんを大切に思い、一本一本を我が子のように育ててきたこと、オーナーさんお一人お一人を意識し、苗木を絶対に枯らすまい、鹿害に合わすまいとの思いから、毎日、悪天候の日も見回りを欠かさずしていること、それは想像以上にとても大変なことであったことも語りました。

さらに、十八成地域は東日本大震災以降、人口が減り、また、住民の多くが高齢者で、地域の方に協力をさせるには負担が大きすぎる、と、阿部栄悦は殆ど独りで管理をし続けてます。

今後も、阿部栄悦一人で個人のオーナーさんのアーモンドとして610本ものアーモンドを守ることは、肉体的にも精神的にも限界であることを全員が共通して理解しました。

こうした理由から、以下を十八成協議会として決定し、愛知ボラセンはそれを応援していくことに合意しました。

合意事項

- (1)アーモンドのオーナー制度は2018年度で終了し、オーナーさんは自分個人のアーモンドから、アーモンド苑全体のアーモンドのオーナーさんに移行する。
- (2)それに伴い、個人プレートは2018年度で廃し、オーナーさん全員のお名前と、十八成アーモンド苑がオーナーさんのおかげで設立できた旨を明記したアーモンド苑全体のプレートを作製する。

以上

なお、今後も鹿害対策や草刈、消毒、パトロールは継続します。

当初からの変更により、オーナーさんにはご迷惑をおかけするかとは思いますが、アーモンドを守り続けるために必要な措置としてご理解いただけたら幸いです。

皆さまには今後も十八成浜や桃源郷プロジェクトの応援を続けてくださることをお願いいたします。

敬具